小さな点一つまでもビビッドにしたい

しんたに まさひろ　1943年，大阪市生まれ。1970年，『アンアン』の創刊に参加して編集デザインの仕事を始める。以降，雑誌だけでなく多数の本のデザインを担当し続けている。

●『小学生の国語』『小学生の書写』アートディレクター　新谷雅弘

私は四十年以上も販売部数を書店で競い合う雑誌や絵本、写真集などの制作現場にいて、主には雑誌をつくってきました。

そこでつくられる雑誌の多くは読んですぐに捨てられることを覚悟していましたが、だからといっていい加減に作って済むほど甘くはありません。読み捨てられるのが雑誌の宿命だとしても自分たちの雑誌だけは心に残って欲しいし、またそうさせなければ作った甲斐がないと思い続けてきたのです。

そうした中で、発売から何十年も過ぎているのに「自分はあの雑誌に夢中になった。育てられた。」とお世辞でなく話しかけてくれる人たちに出会います。するとわれわれ制作現場にいた人の気持ちが伝わっていた人たちもいたのだと、うれしくなります。そんな評価を受けた雑誌に誌面デザインもいくらかは力になれたのかもしれないと考えますと、そこで得た誌面デザイン制作の方法が教科書をつくる場合にも役立てられるのではないかと考えました。

教科書の誌面でも、純粋な言語以外に視覚的な言葉がたくさん使われます。たとえば色彩、何かの形や線、大小の異なる文字、絵や写真やグラフなどです。これらをどのように

して作り出して配置するのかを考えるのはデザイナーの役目で、編集意図が学校現場や読者に明快に伝わるかどうかが苦心のしどころなのです。表現の可能性は無限にあります。人間は小さな点一つにも感応するからです。読者は純粋な言語から伝わることだけではなく、上に述べた視覚的な図像も感受し、その構成意図も感覚的な次元で読んでいると思います。私たちの仕事は、編集現場のねらいをそれらの要素を総動員して、より理解度を高める方向に進めることです。

また、現場には三省堂という会社の社風も流れています。それは外の人間にはよくわかりませんが、私個人が中学時代から慣れ親しんできた三省堂の辞典の好ましい点にも社風は含まれていると考えて、私なりの評価も盛り込ませることができたらいいのではないかと考えました。

最終的にはそうしたいろいろな思いは編集長に集約します。そこで編集長との話し合いの中で私の中に生まれてきたのはビビッドという言葉で、「生き生きとした誌面にすること」という目標でした。生きていない誌面にはだれも興味をもたないからです。

ことばの学び
平成23年度版
『小学生の国語』『小学生の書写』
教科書特集号I

2010年4月10日発行
定価　100円（本体96円）
編集・発行人　八幡 統厚

●発行所　株式会社　三省堂
〒101-8371　東京都千代田区三崎町2-22-14
TEL　03(3230)9427〔編集〕
振替　東京　00160-5-54300
●印刷所　三省堂印刷株式会社
〒192-0032　東京都八王子市石川町2951-9